

2017年度第1回 鋼構造運営委員会 議事録

1. 日時 2017年5月22日(月) 13:30~17:00
2. 場所 建築会館会議室 304号
3. 出席者 井戸田秀樹, 五十嵐規矩夫, 田中剛, 一戸康生, 宇佐美徹, 岡崎太一郎, 岡本
(敬称略) 哲美, 木村祥裕, 向野聡彦, 澤本佳和, 下川弘海, 田川泰久, 多田元英, 中込
忠男, 成原弘之, 尾崎文宣(平島岳夫代理), 石原直(緑川光正代理), 見波
進, 山田哲, 兼光知巳(記録)
欠席: 越智健之, 笠井和彦, 竹内徹, 津田恵吾, 寺田岳彦, 西山功, 原田幸博
4. 資料(ストレージサーバ)
 - 01-00 委員名簿(五十嵐幹事)
 - 01-01 議事予定(井戸田主査)
 - 01-02 2016年度第4回鋼構造運営委員会議事録(案)(宇佐美委員)
 - 01-04 座屈小委員会(木村委員)
 - 01-06 素材小委員会(見波委員)
 - 01-07 環境小委員会(兼光)
 - 01-08 塑性設計小委員会(五十嵐幹事)
 - 01-09 鋼構造設計規準改定小委員会(田川委員)
 - 01-10 鋼構造関連規準・指針の英文化小委員会(岡崎委員)
 - 01-11 各種アンカーボルト設計WG(田川委員)
 - 01-12 耐火設計関連(指針改定講習会案内)(尾崎氏(平島委員代理))
 - 01-13 鋼構造PD開催告知 ver170410(多田委員)
 - 01-14 過去のPD開催履歴(井戸田主査)
 - 01-15-1 重点審議(鋼構造関連規準・指針の英文化小委員会)(岡崎委員)
 - 01-15-2 重点審議(指針のまえがきと目次)(岡崎委員)
 - 01-16 質疑回答(五十嵐幹事)
 - 01-17 座屈崩壊WG | 設置申請(委員追加)(木村委員)
5. 議事内容
 - (1) 委員名簿の確認
 - ・資料01-00に基づき, 五十嵐幹事より, 2017年度の委員名簿の説明があった。
 - ・修正があれば, 五十嵐幹事に連絡する。
 - (2) 前回議事録の確認
 - ・資料01-02に基づき, 宇佐美委員より, 前回議事録の説明があった。議事内容(2)を下記のように修正することで, 承認された。

(修正前) 来年度の委員長裁量経費について、「鋼構造関連規準・指針の英文化小委員会」に引き続き使用することが、次期委員長(塩原先生)から示された。

(修正後) 来年度の委員長裁量経費について、「英文化事業」に引き続き使用することが、次期委員長(塩原先生)から示された。

(3) 小委員会・WG等の報告

- ・資料 01-04～01-12 に基づき、各小委員会・WG等の担当委員から報告があった。

座屈小委員会 (資料 01-04 木村委員)

- ・鋼構造の座屈に関する諸問題」の刊行を目指す(2021年度発刊目標)。
- ・「座屈設計指針」の植松先生(構造委員会)の査読への回答は概ね終了した。
- ・「座屈設計指針」の講習会は、東京(2/23)、大阪(3/2)で決定。
- ・委員交代 小崎均委員→末岡利行氏(日建設計) は運営委員会にて承認された。

接合小委員会 (資料なし 山田委員)

- ・前回運営委員会以降、小委員会を開催していない。

素材小委員会 (資料 01-06 見波委員)

- ・ハンドブックに関して、引続き検討している。

環境小委員会 (資料 01-07 兼光)

- ・東京五輪関係者との情報交換を企画している。
- ・損傷に留意した設計について、文献調査を実施中である。
- ・指針の英文化の作業を開始した。

塑性設計小委員会 (資料 01-08 五十嵐幹事)

- ・「鋼構造塑性設計指針」の第4版改定の議論を引き続き行った。
 - ・荷重の取り扱い、鋼構造限界状態設計指針との整合性、英文化について検討する。
 - ・各章の改定内容を概ね抽出した。
 - ・8章接合は、中野委員に担当してもらい、接合小委員会との調整を行ってもらう。
- ・委員追加 井戸田秀樹先生 は運営委員会にて承認された。

鋼構造設計規準改定小委員会 (資料 01-09 田川委員)

- ・前回運営委員会以降、新たな報告はない。

鋼構造関連規準・指針の英文化小委員会 (資料 01-10 岡崎委員)

・接合部指針の英文化を引き続き検討している。6/30までに、鋼構造運営委員会へ査読依頼をしたい。

→運営委員会の査読担当：田中幹事、原田委員

- ・S規準については、構造委員会の査読回答に対する意見待ちである。
- ・英文化作業に対して、学会から予算が出ない。そのため、委員の作業が増えている。
 - まずは、小委員会で対応を検討し、小委員会にて対応が難しいようであれば、運営委員会で対応を検討する。

各種アンカーボルト設計WG (資料 01-11 田川委員)

- ・金属系アンカーに関する素案を検討した。
- ・接着系アンカーに関する素案は、次回WGで検討予定。

・鋼構造運営委員会，RC造運営委員会，鋼コンクリート運営委員会から要望を出し合った。出版スタイル（現状の4編，分冊），管理する運営委員会，出版物の名称，新規設置する小委員会の運営委員会などを議論した。

・次回鋼構造運営委員会にて，新規設置する小委員会の企画案を提示予定。

耐火設計関連（資料 01-12 尾崎先生（平島委員代理））

・6/5 鋼構造耐火設計指針講習会の動員をかけている。

・耐火設計関連については，今後も運営委員会にて報告する。

(4) 2017 年度 PD について

・資料 01-13 に基づき，多田委員より，PD の準備状況の報告があった。

(5) 2018 年度 PD について

・井戸田主査より，PD の議論の参考として，過去の PD の一覧表が示された（資料 01-14）

・田中幹事より，次々回運営委員会（8月30日）には，PD の内容を決めたいとのスケジュールが示された。

・英文化小委員会，環境小委員会，宇佐美委員から，2018 年度 PD を検討している旨の意見があった。次回運営委員会で，案を提示してもらう。

(6) 重点審議（鋼構造関連規準・指針の英文化小委員会）

・資料 01-15-1，01-15-2 に基づき，岡崎委員より説明があった。説明の主旨は以下の通り。

・本文は英訳，解説は一部を抄訳，役立ちそうな例題は英訳，国外から分かりにくい背景は補足する，S 規準英語版と補完関係にする という方針で英文化する。

・文章構成や用語は，米国 AISC 最新版などを手本とする。

・対訳表を整理し，後継担当への引き継ぎを円滑にする。

・英語版独自の「まえがき」を書き下ろし，本書の冒頭に掲載。

・英訳するにあたり，いくつか決めかねている表現がある（降伏耐力／許容耐力，終局強度設計）

・S 規準，接合部指針に次ぐ英文化は保留。

・2018 年度大会 PD を検討している（日本語版の学会規準・指針類のあり方に対するロードマップ（案）を提示・議論）

以上の説明に関して，審議された。以下，主な審議内容を示す。

・米国では，設計基・規準の相互関係が明快で，読者が使いやすいものになっている。英語版を発信し，特に，国外の人に使ってもらうためには，この米国の明快さに近づく必要がある。そのためには，分野横断で設計基・規準の体系化を考える必要があるのではないか。

・日本では，許容応力度設計法が，まだ主流であるが，米国では，LRFD に軸足を置きつつある，日本では法律の仕様に依存している部分が多いが，米国では施設別に要求性能を決めているおり性能設計が進んでいる等，異なった社会システムの国の人に，日本の技術を説明していくには工夫が必要である。

・技術が未熟な国へ，日本の技術を発信する意義は大きい。特に，日本の耐震技術に対する期待は大きいと思われる。ただし，技術がない国へ情報発信するには工夫が必要（例：高力ボルト摩

擦接合の概念がない国)

- ・英文化は、国外とのコミュニケーションへの活用に期待できる。
- ・実務者から見ると、材料は連続して使っている。実務の実態に合った、設計基・規準の体系化を考えて欲しい。
- ・PD で、分野横断で議論する場合、議論が発散しないような企画を考えてほしい（分野を絞る、ポイントとなる荷重は必須、土木の話題も入れるなど）

(7) 学会図書の質疑回答の報告

- ・資料 01-16 に基づき、五十嵐幹事より、質疑回答の状況報告があった。

(8) 委員追加

- ・資料 01-17 に基づき、木村委員より、座屈崩壊型鋼構造部材の性能評価 WG への下記 2 名の委員追加申請があり、承認された。

佐藤篤司先生（名古屋工業大学）、佐藤公亮先生（東北大学）

(9) 次回重点審議について

- ・各小委員会の進捗状況、来年度 PD の議論を考慮し、次回重点審議は、環境小委員会とする。

(10) 懇親会について

- ・8月30日に実施する。担当は兼光。玉井先生（長崎大学）に協力をあおぐ。

6. その他

- ・次回運営委員会 8月2日（水） 13:30-17:00 於 建築会館
- ・次々回運営委員会 8月30日（水） 構造本委員会終了後 於 広島
- ・次回重点審議 環境小委員会

以上